



進路、地域、PTA だより

かけはし No.6

発行：令和6年9月30日
横浜市立左近山特別支援学校
進路、地域、PTA 部

PTA

○9月18日(水)に、「市P連 特支部会 令和6年度第1回研修会 進路部会」が、本校にて行われました。当日は、「18歳以上で利用できる福祉サービス」のテーマで、「いそご地域活動ホームいぶぎ」渡邊様をお迎えし、各校より集まった皆さんと、有意義な研修をすることができました。4年生の役員の皆様、ご準備をありがとうございました。また、同時に「広報部会～視線入力体験会～」が東俣野特別支援学校にて行われ、本校からは、2名の保護者の方が参加されました。

○4年に1度の、PTAの見直しに関する検討を、4年生の保護者の方を中心にスタートさせました。今後、アンケート等で、会員の皆様にもご意見も伺いながら、今後の本校PTAの活動について考えていきたいと思えます。ご協力のほど、よろしくお願いいたします。



高等部1学年進路面談

9月2日(月)～6日(金)の期間、高等部1学年進路個人面談を実施しました。今回は、高等部卒業後にどのような進路先があるのかお話しさせていただいたり、現状の進路希望のお話を聞かせていただいたりしました。

第2回保護者進路学習会

9月17日(火)10:00～11:00に「第2回保護者進路学習会」を実施しました。今回は、『社会福祉法人型地域活動ホームの機能について』と題して、旭区基幹相談支援センター主任相談員である箕輪様を講師にお迎えして実施し、写真などを取り入れながらお話していただきました。

～当日ご出席いただいた保護者の方のご感想より～

*「同じテーマの学習会を子供が小学生の時に聞きましたが、高校生になって改めて聞くと、グッと身近に感じ、頭の中に入っていました。」



校内職員研修

9月10日(火)に、本校教職員を対象に、「肢体不自由特別支援学校高等部卒業後の進路そして現状と課題」と題して、研修を実施しました



地域活動ホームのお祭り

9月14日(土)に旭区の社会福祉法人型地域活動ホーム「サポートセンター連」にてお祭りが行われました。

本校進路専任と特別支援コーディネーターの2名が出店のお手伝いをさせていただきました。秋は、多くの事業所でお祭りが行われます。ぜひ、進路先を知る意味でもご参加されてはいかがでしょうか。



裏面があります

港南区自立支援協議会～サンフラワーあったかいね～

医療的ケア児者等コーディネーターの北島様をお迎えして、「聞いてみよう！医療コーディネーター～小児科を卒業したらどうなるの？～」というテーマで、話をしました。

北島様より、こども医療からどこかの病院へつながることが難しい現状、訪問診療につなぐことはできるけれど、いざという時の入院先を事前に確保しておくことが難しいこと、医療側も課題を感じていて、医師会で研修をしていることなどを伺いました。

北島様から「どんなことに困ったか。」「どうしたらうまくいったか。」との問いかけに対して、訪問診療とつながっているお母さんからは、「普段は困らないが、いざ、入院をする必要があったときに、入院する病院が見つからなくて困った。」「難病の専門医にも見てもらいたいののに、訪問医がいるからいいでしょうとなってしまふ。」「例えば、てんかんの薬の調整は訪問医にはできない。」「入院が必要になったときに大人の病院に重症心身障害児者に詳しい看護師がいない。」「メディカルショートステイを利用することで、その病院に、重症心身障害児者のことを知ってもらうことができる。」「私たちの声を、どうしたら変えられる場へ届けることができるのか。」などの声があがりました。

北島様より紹介のあった相談先

かながわ移行期医療支援センター

電話：045-312-1121

受付時間：10:00～17:00（月～金曜日の平日）

『小児期発症の慢性疾患を抱える患者さんが大人になっても自身にとって最適な治療・支援を受けることができるよう、移行期医療支援コーディネーターが患者さん等からの相談支援を行うとともに、小児・成人診療科や各種関係機関の連携を支援することで、地域における移行期医療支援体制の構築に努めます。』（HP より抜粋）

※今後、各区の医師会に所属する在宅医療相談室も病院に関する情報収集をしているそうです。今後、港南区だけでなく、他の区についても相談ができるようになっていくと思われます。

保土ヶ谷区自立支援協議会防災部会

保土ヶ谷区自立支援協議会防災部会では、「被災地障害者センター横浜ほ도가や」を令和5年12月19日に設立しました。今回の部会では、「被災地障害者センター横浜ほ도가や開設訓練マニュアル」に沿って、開設の訓練を実施しました。「ほ도가や地域活動ホームゆめ」の一部屋で、集まったメンバーを、本部、実働班、情報班に分け、外部から来たボランティアの登録というところまで行いました。

後半は、実際に能登半島地震の被災地の支援活動に参加したメンバーから、実際の支援の様子を伺いました。7月1日に現地視察をしたそうですが、まだ、被災直後の手つかずのような状況に思えたそうです。それでも、現地の方は、道路の凹凸がだいぶ良くなった、公費解体が始まり景色がだいぶ明るくなったとお話になったそうです。支援活動は、一人暮らしの当事者の方の自宅の片づけをされたそうです。

能登半島は、この度の豪雨で、再び大きな被害がありました。謹んでお見舞いを申し上げるとともに一日も早い復興をお祈り申し上げます。